

名古屋グランパス

深堀隼平



高校時代がもっとも忙しかったと話す深堀選手。学業と両立してユースの練習に励み、月曜日と木曜日は高校サッカー部の練習にも合流。ほぼ休みはなかった。現在の生活はサッカーだけに集中できると笑顔を見せる

風間八宏新監督の就任や、選手約20人の加入・移籍などでJ1復帰を目指す名古屋グランパス。
今シーズンからは、長久手市出身の深堀隼平選手がトップチームに昇格した。
ユース時代にはJユースカップの全国大会準優勝や、個人での得点王などを経験。
チーム期待のルーキーの素顔に迫る。

憧れのJリーガーを夢見て ボールを追いかけた少年時代

「ほぼ毎日暗くなってボールが見えなくなるまで兄と練習していました。『暗くなったら帰るよ』と母に伝え、ボールを片手に長久手市の蟹原公園へ一直線でした」と笑顔を見せるのは深堀隼平選手。名古屋グランパスのU-18を経て今シーズンからトップチームに昇格した19歳だ。
初めてサッカーに出合ったのは3歳。2歳上の兄の影響で、幼稚園のサッカークラブ「さつきFC」に所属した。小学校時代には名古屋市のシルフィードフットボールクラブで本格的な練習を開始。Jリーガーを夢見たのは小学3年生の頃だった。「テレビでクリスティアーノ・ロナウド選手を見たのがきっかけでした。早いスピードと両足

でのシュート。僕もプロのサッカー選手になりたい」と釘づけになりました」と目を輝かせる。

小学6年生になるとプレアの基盤ができていった。当時からチームの中心として活躍していた深堀選手。サッカークラブの監督は「もっと点を取ってほしい」と伝えた。期待を寄せた言葉に、深堀選手の情熱はより燃え上がった。

「監督の言葉はともうれしかった。点を取るため必死に練習しました。攻撃を担うFWになったのもこの頃からです。今思えば、僕のサッカーの土台ができた時代でした」
攻撃の核となり、強みであるスピードを武器に、利き足ではない左足でのドリブルやシュートを磨いた。小学6年生の秋には、名古屋グランパスのU-15セレクトシヨンに挑戦。見事合格を果たし、

夢を叶えるための第一歩を踏み出した。

勝利と挫折を味わったユース さらなる高みを目指して

小学校卒業後は、名古屋グランパスU-15に所属。長久手市立南中学校ではサッカー部の練習にも参加し、さらに活躍の場を広げていった。高校はサッカーの強豪である東海学園高等学校に進学。ここでもサッカー部の練習に参加しながら、名古屋グランパスU-18では欠かせない存在となり、ほぼ毎日練習に励んだ。

高校2年生の時、才能が開く。日本のクラブユースが頂点を競うJユースカップの全国大会でチームが準優勝。得点王にも輝き、深堀選手は大きな自信を手に入れた。「メンバー全員が生き生きとしていて、あんなにもチームの一体感を感じた試合はありません。もっとも忘れられない試合です」。

そんな中、試練が訪れる。高校3年生の4月、腰に痛みを覚えて試合を途中退場。第4腰椎の疲労骨折・分離症と診断され、5カ月間のリハビリを余儀なくされた。当時、高円宮杯U-18サッカーリーグ2016プレミアリーグWESTが開幕しており、チームは順調に

リーグ戦を突破。深堀選手にとって初の欠場だった。

「試合を観ているだけというのは本当に歯がゆく、とても悔しかったです。でもこの経験をサッカーに生かさねばと思いました。腰に負担がかかる原因を考え、対策として筋力トレーニングに励みましたと力強く話す。リハビリとともに、ウエイトトレーニングで上半身を強化。腰への負担は体が硬いためだと、柔軟運動も積極的に取り入れた。

5カ月の療養期間を経て、2016プレミアリーグWEST第12節に出場。後半86分にゴールを決め、見事復帰を果たした。

夢を叶えてプロの世界に チームのJ1優勝に貢献を

昨年12月、深堀選手のトップチーム昇格が決定。名古屋グランパスのU-18を引退し、3月には全体練習に合流した。「初めてグランパスの試合を観たのは小学3年生の時。小学6年生の時にチームがJ1優勝しました。プレーしたいと思うチームはグランパス以外、考えられませんでした。愛するクラブでプロサッカー選手になれて何よりうれしく思います」と情熱を注ぐ。



名古屋グランパス MF(ミッドフィールダー) 深堀隼平

生年月日:1998年6月29日
身長:178cm / 体重:67kg
ニックネーム:シュンペイ、シヨン

「武器であるスピードをもっと磨きたいです。速さでは負けたくないし、負けてはいけません。もっとプレーの高みを追求していきます」

寮生活を送り、サッカーに集中できる環境に身を置く。「技術はもちろん、ケアの仕方やプロ意識などを学んでいます。練習で先輩が最後まで残っている日もあり、心から尊敬しています」と目を輝かせる。J1昇格・優勝を目指してチームに貢献したいと意気込む深堀選手。子どもたちが憧れるJリーガーになりたいとも熱を込める。

「今までユースの中心メンバーとして活躍し、夢を叶えてプロになりました。今は試合に出られない日が多いですが、毎日すべきことをして、いつか来るチャンスを掴みたい。グランパスはJ1にいるべきチームです。サポーターの皆さんのためにも必ず活躍します」
公園で練習に明け暮れたかつてのサッカー少年が、いま名古屋グランパスの未来を担う。



1



2

1 ケガから復帰した直後の京都サンガF.C.戦。復帰ゴールとなった渾身のシュートは周囲を大いに沸かせた
2 トヨタスポーツセンターの第1・第2グラウンドで日々練習に励む。グランパスにとって着実に欠かせない存在となり、練習の公開日には見学するサポーターと触れ合う時もある